名古屋市の業務概要

― 差別と区別という認識の中で ―

学ぶことは容易なことではない。つかうことはいっそう容易なことではない

１９７２年、会社設立後、５年後の１９７７年に最初の仕事として、守山社教センターと千種社教センターの設備設計を受注した。１９７９年には原小学校新築の設備設計に従事していた。１９８３年は、初めてのコンサルティング業務として、「中央卸売市場北部市場設備改造調査」が委託され、その後の３年を経て、１９８６年には「北部市場設備更新及び改良のための調査」が委託された。

それ以来、５０年間を通じて、名古屋市からは新築建物の設備設計と、既設施設の設備改造設計を受託し、コンサルティング業務としては、企画、調査、検証等を委託されてきた。設計業務は、時代の流れの中で、名古屋市側の意図もあり、時に応じて特徴があった。学校建設の設備設計は１９７９年の原小学校を始めにして、２００９年の志段味小分校まで、平均的に5校受注したが、１９９０から２０１２年にかけては、小・中学校、工業高校の大規模改造が主体になり、２０１３年以降は、小・中学校の教室空調の業務となっている。方面別という名前で建設が予定された、スポーツセンターでは、１９８６年の稲永方面別をはじめとして、１９９８年迄の１２年間に、北、中村、名東、中、昭和,の6スポーツセンター施設を、プロポーザル方式で選ばれて設備設計を受注した。更に特別養護老人ホームなごやかハウス丸池もプロポーザルにて受注した。

１９９６年からは地下鉄線路の拡大に伴って、地下鉄駅の設計では、大幸車庫をはじめとして、本山、名古屋大学、八事、八事日赤、鳴子北、相生山,神沢、徳重、の各駅と徳重車庫と２００８年までの設計業務を委託された。コンサルティング業務で注目されるものとして、１９８８年、世界デザイン博覧会メイン会場として建設されたのに伴い委託された、「白鳥センチュリープラザ管理マニュアル作成」と、環境問題に特化したものとして、１９９８年から１９９９年に２年間を通して名古屋市のチームに参加して作業を行い完成した、「環境配慮型公共建築物整備指針作成」は、地球温暖化対策の解決のための行動指針として参考にすべきものである。

稲永スポーツセンター

名東スポーツセンター